

ばい煙発生施設設置（使用、変更）届出書

年 月 日

高松市長 殿

届出者

郵便番号() 電話番号()
 (氏名又は名称及び住所並びに法人にあってはその代表者の氏名)

大気汚染防止法第 6 条第 1 項（第 7 条第 1 項、第 8 条第 1 項）の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称		※ 整理 番号	
工場又は事業場の所在地		※ 受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設の種類		※ 施設 番号	
ばい煙発生施設の構造	別紙 1 のとおり。	※ 審 査 結 果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙 2 のとおり。	※ 備 考	
ばい煙の処理の方法	別紙 3 のとおり。		

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類のカラムには、大気汚染防止法施行令別表第 1 に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印のカラムには、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格 A 4 とすること。

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号			
名 称 及 び 型 式			
設 置 年 月 日		年 月 日	年 月 日
着 手 予 定 年 月 日		年 月 日	年 月 日
使 用 開 始 予 定 年 月 日		年 月 日	年 月 日
規	伝 熱 面 積 (m ²)		
	燃料の燃焼能力 (重油換算 L/h)		
	原料の処理能力 (t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)		
	変圧器の定格容量 (kVA)		
	触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg/h)		
	焼 却 能 力 (kg/h)		
	乾 燥 施 設 の 容 量 (m ³)		
模	電 流 容 量 (kA)		
	ポ ン プ の 動 力 (kW)		
	合 成 ・ 漂 白 ・ 濃 縮 能 力 (kg/h)		

- 備考
- 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
 - 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第 1 の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
 - 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格 A 4 の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号							
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	時～時 時間/回, 回/日, 日/月			時～時 時間/回, 回/日, 日/月		
	季節変動						
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類						
	使用割合						
	原材料中の成分割合 (%)	硫黄分 が 沙分	鉛分 弗素分		硫黄分 が 沙分	鉛分 弗素分	
	1日の使用量						
燃料又は電力	種類						
	燃料中の成分割合 (%)	灰分	いおう分	窒素分	灰分	いおう分	窒素分
	発熱量						
	通常の使用量						
	混焼割合						
排出ガス量 (m ³ /h)	湿り	最大	通常		最大	通常	
	乾き	最大	通常		最大	通常	
排出ガス温度 (℃)							
排出ガス中の酸素濃度 (%)							
ばい煙の濃度	ばいじん (g/m ³)	最大	通常		最大	通常	
	いおう酸化物 (容積比 ppm)	最大	通常		最大	通常	
	カドミウム及びその化合物 (mg/m ³)	最大	通常		最大	通常	
	塩素 (mg/m ³)	最大	通常		最大	通常	
	塩化水素 (mg/m ³)	最大	通常		最大	通常	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/m ³)	最大	通常		最大	通常	
	鉛及びその化合物 (mg/m ³)	最大	通常		最大	通常	
	窒素酸化物 (容積比 ppm)	最大	通常		最大	通常	
ばい煙量	いおう酸化物 (m ³ /h)	最大	通常		最大	通常	
参考事項							

- 備考 1 原材料中の成分割合 (%) の欄及び燃料中の成分割合 (%) の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態（この項において「標準状態」という。）における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立法メートル中の量に、それぞれ換算したものとす。
- 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 4 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 5 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用（専ら非常時において用いられるものをいう。）の別を明らかにすること。

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号				
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号				
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式				
設 置 年 月 日			年 月 日	年 月 日
着 手 予 定 年 月 日			年 月 日	年 月 日
使 用 開 始 予 定 年 月 日			年 月 日	年 月 日
処 理 能 力	排 出 ガ ス 量 (m ³ /h)	最 大		
		通 常		
	排 出 ガ ス 温 度 (°C)	処 理 前		
		処 理 後		
	ばいじん (g/m ³)	処 理 前		
		処 理 後		
	いおう酸化物 (容量比 ppm)	処 理 前		
		処 理 後		
	カドミウム及びその 化合物 (mg/m ³)	処 理 前		
		処 理 後		
	塩素 (mg/m ³)	処 理 前		
		処 理 後		
	塩化水素 (mg/m ³)	処 理 前		
		処 理 後		
	濃 度 弗素、弗化水素及び 弗化珪素 (mg/m ³)	処 理 前		
		処 理 後		
	鉛及びその化合物 (mg/m ³)	処 理 前		
		処 理 後		
	窒素酸化物 (容量比 ppm)	処 理 前		
		処 理 後		
ばい煙量	いおう酸化物 (m ³ /h)	最 大	処 理 前	
			処 理 後	
		通 常	処 理 前	
			処 理 後	

捕集効率 (%)	ばいじん		
	いおう酸化物		
	カドミウム及びその化合物		
	塩素		
	塩化水素		
	弗素、弗化水素及び弗化珪素		
	鉛及びその化合物		
	窒素酸化物		
使用状況	1日の使用時間及び 月使用日数等	時～時 時間/回, 回/日, 日/月	時～時 時間/回, 回/日, 日/月
	季節変動		
排出口の実高さ H_o (m)			
補正された排出口の高さ H_e (m)			
排出速度 (m/s)			

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態(この項において「標準状態」という。)における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。
- 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 4 補正された排出口の高さ H_e は、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
- 5 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記載した概要図を添付すること。

ばい煙発生施設設置（使用，変更）届出書添付書類

<p>1 ばい煙の排出の方法</p>	
<p>2 ばい煙発生施設およびばい煙の処理施設の設置場所</p>	<p>別紙のとおり</p>
<p>3 ばい煙の発生および処理に係る操業の系統の概要</p>	<p>別紙のとおり</p>
<p>4 煙道の排出ガス測定用箇所</p>	<p>な し あ り（別紙のとおり）</p>
<p>5 緊急連絡用の電話番号および緊急時の連絡方法</p>	

- 備考
- 1 ばい煙の排出の方法については、例えば『煙突から排出している』、『排出口がなく窓から直接大気中に排出している』等のように具体的に記載すること。
 - 2 ばい煙発生施設，処理施設の設置場所は，工場または事業場内における設置場所を図示すること。
 - 3 煙道の排出ガス測定用の箇所は，ない場合は『なし』の項に○印を，ある場合には別紙で図示すること。